

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°46 ドメーヌ・モス

生産地方：ロワール

新着ワイン3種♪

VdF レ・ボンヌ・ブランシュ 2012 (白)

2012年は、天候が不安定で難しい年ではあったが、ワインの品質的には当たり年だった！開花時期の雨の影響で結実があまりうまく行かず、前半からブドウの収量が少なかったが、後半は天気にも恵まれ、少ないブドウの房に全てのエキスが一気に集中した。収穫時期に雨に見舞われたが、ヴィエーユ・ヴィーニュのボンヌ・ブランシュにはさほど影響がなく、完熟したブドウを収穫できた。ワインは辛口！アルコールだけではなく酸もミネラルも全てのエキスが凝縮しているので、味わいは筋肉質で重心が低く、飲みごたえ十分！

AC サヴニエール・アレナ 2012 (白)

2012年は、ボンヌ・ブランシュ同様にワインの品質的には当たり年！収穫時の不安定な天候の中サヴニエールは幸いにもミクロクリマに助けられ、ほとんど雨に当たらなかった。ワインは辛口でアルコール度数も高くポリフェノールがあるが、凝縮したミネラルが柱にあり飲み疲れしない！

VdF ボワ・ルージュ 2013 (赤)

2013年はみずみずしく果実が染み入るような優しいワインに仕上がっている！収量が20 hL/haと前年以上に少なく、当初は潜在アルコール度数が13%を超えるくらい完熟していたが、収穫直前に大雨が降り、ブドウが一気に水分を吸い上げたため、最終的なアルコール度数は12%弱まで落ちてしまった。ブドウの腐敗も始まっていたが、粒単位で厳格に選果をしたおかげで、雑味のないきれいなワインに上げることができた！

当主アニエス&ルネ・モス ミレジム情報

今回日本でリリースするワインのミレジムについて語る。

2012年は収穫の最後まで天候に悩まされたとても厳しい年だった。6月中旬から始まった開花の時期に合わせるように雨が降り始め、普段だと1週間もあれば終わる開花が3週間もかかってしまい、また3割以上の花が流れてしまった…。収穫は、開花にばらつきがあった影響で、ブドウの成熟度合いが同じ区画内でも大きな差がでてしまい、完全にブドウが熟したかどうかのタイミングを見極めるのが本当にたいへんだった。また、途中雨が降りはじめ、水を吸ったブドウは熟成を早めると同時に腐敗のスピードも早め、結局後半になればなるほど粒単位の選果を余儀なくされた…。結局、収量は去年の半分以下！ただ、ブドウの選果を丁寧に行ったおかげもあって、ワインの品質は素晴らしいものに仕上がった！

2013年は、とにかく雨の多い年だった…。春がとて暖かくブドウの発芽は早かったのだが、4月の終わりから6月終わりまで2日おきに雨が降るような不安定な天候が続いた。5月15日、16日、そして6月12日に軽く雹が降ったが、ブドウが大きくなかったので幸い被害が少なかった。開花は2週間遅れの7月初めから始まり、その期間は幸い雨が当たることなく順調に終わることができた！開花以降は曇りがちで猛暑のない涼しい天気が9月中旬まで続いた。暑い夏が少なかったため、全体的に成長が遅く、ブドウも晩熟だった。9月終わりから再び天気が崩れ始め、不安定な天候は収穫期間中にまで及んだ。収穫の後半はブドウの腐敗も始まり、赤は厳格な選果をせざるをえなかった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

近年のルネモスの白ワインは見違えるように洗練されてきている！アルコール度数が高かったり、また残糖があるワインでも、味わいがまっすぐでキレがあり重たさを感じさせない！ルネに「何かスタイルを変える変化があったのか？」と尋ねてみたところ、彼は「温度管理ができる環境を整えたり、大樽や木桶タンクを取り入れたり、少しずつ細かい変化はあるが、基本的なスタイルは今までと何も変わっていない」と答えた。「では、なぜ実際に今までとワインの質が違うのか？」とさらに聞いてみると、彼は「当たり前のことだが、ブドウも年を経て大きく成長している。当時に比べてブドウ樹もよりビオディナミの環境に適応し真価を発揮するようになったのだろう」とシンプルに答えた。確かにブドウも10年以上も年を経ると格に違いが出てもおかしくない！当時からブドウのポテンシャルを信じて、自らのスタイルを変えなかったルネの信念があってこそ今があるのだ。

現在は、ワインの完成度が上がったのに比例して、クライアントの引きも強く、今やほぼ全て割り当て状態だ。今回リリースする2012年白も、完成度の高さに度胆を抜かれること間違いなし！

(2015.4.23.のドメーヌ突撃訪問&5.1.のメールより)